



未来を夢見て

2020/9/28 No. 38

サーカスのライオン

気が付けば、9月も最終週です。

心配していた台風は進路を変えてくれましたが、それにしても金曜日の雨には驚かされました。

24日(木)、5年生の花山での野外活動が「雨天プログラム」で実施されました。今年は新型コロナウイルス感染症の影響で、当初の2泊3日の計画を、日帰りに変更しての活動でした。

朝、子供たちを見送りながら、

(できれば泊まらせてあげたかったなあ・・・)

と、私も本音が出てしまいました。

それでも、全員無事帰ってきてくれたときにはほっとしました。中心になって計画を進めていただいた5年生の先生方、そして引率の先生方お疲れ様でした。

25日(金)には、ソフトバンク社の企画で4年生を対象に防災教室が行われました(28日の河北新報朝刊で落合小学校での様子が紹介されています)。講師はPepper君です。子供たちはPepper君の指示で、小グループの中で意見を交流させながら課題を解決していました。

同じ、25日には、3年生の授業研究が行われました。教材は「サーカスのライオン」です。

授業は3年4組の中津川先生の提案、これまで、由紀子先生、靖子先生、美香子先生と実践を重ね、それぞれの実践での成果と課題を引き継いでの授業提案でした。

検討会にも参加させていただき、協同で授業を作る学年研究のよさを感じました。全文プリントや心情曲線、手紙を書く活動などの視点からの手立ての有効性について検証され、学校の共同研究として、また一歩進んだように感じました。何より、3年生の子供たちに学習の構えがきちんとできていること、大変頼もしく感じました。

授業で扱った場面は、じんざが男の子を助けるために炎の中に飛び込む「山場」です。じんざが力の限り叫ぶ場面の表記

ウォーツ

となっていますね。最後に小さいッが表記されています。ここは、どう音読させたらよいのでしょうか。

以前、6年生を担当していたとき、卒業式の練習で、私の学級の子供たちの返事がよくない、と指導されたことがありました。その時、ある先輩から

はいっ。

と小さなっを意識して返事をさせてみることを、助言していただいたことがあります。

「なぜ、っを入れるのか」と考えさせるのではなく、「っが入ったことで、どう変わるのか」に子供に気付かせたいところです。授業を提案していただいた中津川先生、そして3年生の先生方お疲れ様でした。



(文責：手代木)